

モンスタター ペアレントの猛威。

今、教育現場では常識を逸した保護者からの苦情に教師たちはさらされている。



山川敦司

保護者からの執拗な要求でうつ病を発症

三年前まで都内の小学校に勤務していた望月安江さん（仮名・二十九歳）には、今も脳裏に焼きついて離れない記憶がある。

「二学期の終業式のあと、生徒の保護者が『うちの子は一〇〇点を取ったのに、どうして五じゃなくて四なんだ！』と凄い剣幕で学校に乗り込んできたんです。いくら説明しても成績表を書き直せというばかり。そこで、校長を交えて話し合いをすることになったんですが、今度は宿題のプリントが多すぎる、教育指導がなっていないと、そこでも三時間以上、怒鳴りまくるありさまで……」

保護者は四十代半ばの専業主婦で、以来、連日学校へ押しかけてくるようになった。その都度、望月さんは誠意を持って対応したが、

「全く聞く耳なし、という感じで、とにかく担任を代えろ！」の一点張り。最初はかばってくれた校長も、度重なる抗議にほとほと疲れ果ててしまつて、最後は「担任なんだから君が自分で何とかしたまえ！」と。しかも、嫌がらせはそれだけに留まらず、

「自宅に電話してきて、『これから出てきなさいよ！』と言うんです。時計を見ると深夜一時半。校長先生に相談しても、『穩便に済ませてください』と言うばかりで……、さすがに限界でしたわ」

不眠や嘔吐が続き、うつ病と診断された望月さんは小学校を休職。三年たった今もおPTSD（心的外傷後ストレス障害）に悩まされ続けている。昨今、モンスタターペアレントと呼ばれる、理不尽な要求をする親たちが急増しているという。

文部科学省によると、一昨年度、

全国で病氣休職した教員のうち、五九・五割にあたる四一七八人が精神疾患で、その数は一〇年連続で増加しているという。

モンスタターペアレントという造語の生みの親である日本教育技術学会の向山洋一会長によると、その存在が目立つようになったのは、五年ほど前からで、

「なかには職員室で何時間も怒鳴った挙句『土下座して謝れ！』と詰め寄る親もいて、精神的に追い詰められた教師のなかには、自殺にまで至ったケースもあるほどです。こんな親が乗り込んできてごらんない。先生たちは対応に追われて、とても

正常な授業どころではなくなくなってしまいます。結果、子どもたちが最大の被害者になるんですね。そして、学校全体の動きがギクシャクしていき、最後には学校そのものが疲れ果て、崩壊してしまう。それがモンスタター

ペアレントの恐ろしさなんです」

事態を重くみた文科省は来年度から本格的な学校支援に乗り出す方針を固めたが、冒頭の望月さんは、

「彼らはいつも次のターゲットを探しています。そして、狙われたら最後、あらゆる手を使ってとことんいじめ抜いていくんです。多くの教師が私と同じ思いをしているかと思うと悔しくてなりませんよ」

そう言つて涙を滲ませた。はたして、モンスタターたちの恐るべき実態とは――。

想像を超える クレームの数々

千葉県の公立小学校の男性教師、岡山豊（仮名・三十三歳）さんが、四十代後半の保護者からクレームを受けたのは今年の六月のこと。

「何度言つても教材費を持ってこない生徒がいて、保護者宛に手紙を書い



教師たちは理不尽な要求やクレームにさらされている ©月岡

席している子どもの家に電話を入れると「何で、そんなことでわざわざ連絡してくるんですか」と逆に迷惑がられることもありませうからね。なかには両親共に愛人がいて家に帰ってこないとかね。つまり自分のことで精一杯で、子どものことで煩わされたくないという親が増えていくんです」

て持たせたんですね。すると、夕方に父親が怒鳴り込んできて「子どもにこんな手紙を持たせるなんて、人権侵害じゃないか」という。保護者宛には何度も電話を入れていたし、こちらとしては最後の手段として、こういう方法を取ったんですが、父親の癪に障ったんでしようね」

父親は「訴えてやる！」という捨て台詞を残し、学校を出ていったが、数日後、学校を相手取り本当に裁判を起こし、結果、両者は現在名誉毀損を巡り公判中だという。

「以前は、学級崩壊」についての相談が大半でしたが、最近は、困った親への対処法」の相談が急増しています。しかも、内容はどれも深刻で、聞いていて身につまされるものも多いですね」

と、このタイプの親に対しては、毅然とした態度で接すること、問題を最小限に抑えることも可能だということ。

大学教授だ。

諸富さんによると、こうした親たちの言動には特徴があり、大別すると二種類に分かれるという。

「ひとつは人脈がせ(常識欠如)型。よくあるのが『どうして仲のいい子とクラスを別にしたんだ』『なんでうちの子が写真の真ん中に写っていないんだ』という類のもの。なかには父親から電話で『うちの女房は洗濯物もろくに干せない。先生、うちに来てちよつと言ってやってください』と言われた教師もいました」

ただ、このタイプの親に対しては、毅然とした態度で接すること、問題を最小限に抑えることも可能だということ。

教師をつぶしにかかる親たち

ところが、深刻なのが教師を本気

でつぶしにかかるタイプだ。

「私の知っているケースでは、突然臨時の保護者会を開き、全員で辞めるコールを大合唱。で、その場で退職願を書かせるという保護者もいましたね」

この手の親に目をつけられたため、ノイローゼ状態に陥り、退職させられたケースも少なくないという。

諸富さんはこうした背景に、学校選択性や評価性といった教育改革による、親の権利意識の変化に加え、「現代の歪な親子関係」を指摘する。

「子どもに注意することで関係を壊したくない。だから、子どもの言いなりになって、嫌われ役を学校や教師に転嫁する。これがもつとも多いパターンです」

が、一方では子どもに無関心、という親も増加する傾向にあり、「家出しても、携帯を持っていてから大丈夫」と知らんぷり。担任が欠

また、しつけが厳しすぎる家庭も問題がある。

「しつけが厳しい家庭では子どもは『いい子』のふりをします。親の興味を引くために、教師の些細な言葉を大袈裟に報告する。それを聞いた親が、まるで日ごろの不満を埋め合わせるかのように、教師を一方的に攻撃してくるといふパターンもあるんです」

さらには、

「学歴などを基準に、ハナから教師を見下して、教師の悪口を平気で子どもの前で言う。親がそういう態度でいれば、当然、子どもは教師の言うことに耳を貸したりはしません」

いずれにしろ、家庭問題のはけ口にされる教師はたまったものではないうが、本誌がアンケートを取っただけでも出てくるわ出てくるわ――」

「持ち込み禁止の携帯電話を取り上

げたら)基本料金を日割りで払え!」(神奈川県公立小学校)

「突然、教室に入ってくるなり、掲示物を勝手にはがして、コピーするからと持ち帰ってしまった」(群馬県の公立中学校)

「運動会の練習で『気をつけ』と号令をかけたから『軍隊みたいな教育をするな!』とクレームが入った」(都内の公立小学校)

など、呆れた事例は枚挙にいとまがない。また、給食費不払い問題も深刻で、

「義務教育なんだから、税金で賄え。だいたい給食を出してくれと頼んだ覚えはない、という親はうちの学校にも実在します。何度も面談していますが、まったく払う意思はありませんね。それどころか、この親に感化されたのか、先日は別の親から『子どもがインフルエンザで休んだ一週間分の給食費を返してほし

い」という要求がありましたよ。思わず言葉を失いましたよ」(栃本県の公立小学校教師)

文部科学省によると、二〇〇五年の給食費滞納者は約九万九〇〇〇〇〇人。滞納総額はなんと約三二億三〇〇〇万円にも上るといふ。

わが身を 守るために

理不尽な要求やクレームで教員が法律的なトラブルに巻き込まれることを防ぐため、東京都港区は契約した弁護士に区立の小中学校などが、直接相談できる制度を始めた。区内の公立小学校校長は、

「校内でのトラブルもさることながら、ここ最近では、体育祭の音がうるさい、チャイムの音でノイローゼになった、など近隣住民からのクレームも多く、損害賠償を求められるケースが増えていましたからね。こう

て、自衛を図る教師も増えているといわれるが、

「訴訟費用保険は、職務に関連した行為が原因で法的トラブルに巻き込まれた際、弁護士費用や損害賠償金などを補填する保険のことで、東京では平成十二年から都職員の加入を募集したところ、月七〇〇円という保険料の安さが口コミで広がり、現在、東京の公立校教員の三人に一人を超える二万八〇〇〇人が加入されています。加入者は教職員が突出して多く、この数字そのものが、事態の深刻さを物語っているように思

いった対応に迫られていると、本来の業務が滞ってしまふんです。ですから、この制度の導入で精神的負担が軽減したことは間違いありません」と、本音を漏らす。同区では二五〇万円で五人の弁護士と契約。トラブルがあった場合は、弁護士事務所に向いて相談するほか、緊急時は学校で面談したり、電話相談にも応じている。

こういった動きは全国の教育委員会でも広がっており、京都市では医師や弁護士、臨床心理士、警察OBで作る「学校問題解決支援チーム」を創設。また福岡市や奈良市でも、すでに教師たちの相談に乗る教員OBを配置。岩手県教委では苦情対策マニュアルを作成し、指導に当たっている。

前出の向山さんは、「大賛成」としながら、地域のコミュニティーをもう一度キチンと機能させることこ

ますね」(福利厚生事業関係者)

文部科学省の委託で昨年七月十二月に行われた教育勤務実態調査によると、全国の公立小・中学校教員の七〇％以上が「保護者や地域住民への対応が増した」と感じており、結果「授業の準備時間が足りない」と支障を訴える教員も、小学校では七八割、中学校で七二割に上っている。つまり、それだけ多くの教師たちが、モンスタースターの被害などにより、生徒と向き合う時間を減らされているという現状があるのだ。

前出の諸富さんは言う。

そ、最善の対策だ、と訴える。「昔の大人に教育力があつたのは、地域のコミュニティーがあつたから。でも、これだけ地域社会が崩壊すると、一人ひとりの親が頑張ろうとしても限界がありますからね。だから今こそ、家庭、学校、そして地域で子どもたちをサポートしていく体制、システム作りをしていくべきで、たとえば学校内にPTA会長や地元の医師などをメンバーとした、地域住民のクレーム受付機関のようなものを作るのもひとつの方法」

実は彼らは、地元の著名人には弱いんです。これだけでも、非常識なクレームはかなり減るはずなんです。教育委員会の中にも退職した校長の相談所を設けるんです。こうしたほうが、即弁護士へというステッブより、感情的なものが残りにくはずです」

最近では、訴訟費用保険に加入し

「学校は必要以上に脅えず、あくまでもモンスタースターは一部だということキチンと認識すべきで、先生たちも保護者と腹を割って関係を作っていくば、味方についてくれる常識的な親御さんは必ず出てきます。保護者が団結して言えば、モンスタースターも引かざるを得ませんからね。教師の首を飛ばすのも親ならば、首を繋いでくれるのも親。結局は人間と人間とのコミュニケーションを図っていくしかないんですよ」ともあれ、教師受難の時代はまだまだ続きそうだ。

金剛堂 カタログショッピング

配達から
キャンセルまで
すべて安心
大手宅配業者
との提携で
実現!

お仏壇の ご注文を 受付開始

詳しくはお問い合わせ下さい。

カタログ
無料送付中!
お気軽に
フリーダイヤルへ

金剛堂は「おしきみ」のある生活を
ご提案しています。

根付おしきみ 一本200円

0120-0700-42

受付時間 午前10時～午後6時まで
(日曜日は除く)

0120-62-7002

FAXご注文書をお送り下さい
(24時間受付)

www.kongodo.com

インターネットでもご注文OK!

- 商品は1週間以内のお届けです。
- 送料別途500～800円
- クレジットカードも使えます。
- 返品は到着後7日以内。
(送料お客様負担)
- 商品の性格上、おしきみのご返
金はご返金下さい。

●TEL/T056-0011 大阪府大阪市東淀川区4-7

KONGODO